

母校の発展は自尊感情の高揚



同窓会長 江端 雅司
昭和37年度史学科卒業

この度、青山会長のご退任の後を6月4日の理事会・評議会で指名、承認をいただき、会長職を引き継ぐことになりました。

もとよりその器ではなく、皆様のご期待に応えられるか極めて心配ですが、幸いにして諸先輩のお力により、会としての組織運営や諸事業が堅実な歩みをしていることは、有り難く、喜ばしい限りです。

力及びませんが、精一杯その職責を努めてまいります。どうぞ、役員、理事、評議員並びに会員の皆様のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

■平成16年度は記念すべき年度

平成16年度は、同窓会にとっても大きな節目の年となりました。

一つ目は、教育学部130周年の記念の年でありました。明治6年の大垣藩庁舎を師範研修学校として創立され、その後幾多の移転がありましたが、昭和9年に長良の地に移転され、昭和58年に岐阜大学の統合により、現在の柳戸の地となりました。

平成16年8月、記念碑竣工記念式典が執り行われ、山口正和会長をはじめ、古田善伯学部長、県教育委員会等の祝辞がありました。そして、自然石のままで、「インド産サファイヤ・ブラウン」26トンの除幕式が挙行されました。私も末席を汚しましたが、厳粛にして盛大に行われましたことを鮮明に記憶しています。

＜余談1＞ インド産サファイヤ・ブラウンを設置するに当たり、当時総務部会長の岩田恵司先生、同副部会長の松田孝弘先生が中心となって、業者との折衝等をされました。

＜余談2＞ この自然石には、約50センチから90センチの長さで20数カ所、ドリルで穴が開けられています。設置された業者に聞きましたところ、「現地(インド)で山から切り出した跡、そのものです」とのことでした。

評議会の4日前に改めて“サファイヤ・ブラウン”を長良の旧校舎跡地へ見に行きました。見事な自然石で、しばしその場にたたずみました…。長良で学んだこと等が去来しました。

山口会長は、「教育の願いは将来を見据え決して揺らぐことなく、ドッシリと構え意図的・計画的ではありませんが、余り策に溺れることなく、自然体でありたいものです。」と、重みのある言葉を同窓会報第10号(2004年)で述べられています。



【同窓会記念碑 サファイヤ・ブラウン】

二つ目は、岐阜大学が国立大学の法人化に伴い、国立大学法人岐阜大学となりました。その年、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム(「特色GP」という)に、当教育学部が申請した、『地域・大学共生型教

『師教育システム』が採択されました。これは、国公立大学等が113件申請した中で、12件の採択の1つという凄さでした。この成果はすでに広く紹介されており、教員養成大学等に高い評価を得ています。

その一端を述べますと、「アクトプラン」システムで、1年から4年まで教育現場での体験を積み重ね、教育実践能力の育成を図るものです。4年生の1学期に教育実習を受けた我々にとっては、隔世の感があります。また、現代的ニーズ取組支援プログラムで、「教師のための遠隔大学院カリキュラムの開発」が採択されました。それにより、現職教員が自宅や職場で大学院での学修が可能となりました。

同年度に、2件も採択されました。

平成18年度には、『資質の高い教員養成推進プログラム（教員養成GP）』の指定、平成20年度には、教職大学院の設置等々、当時の学部長や諸先生方が時代の変化に積極的に対応され、地域に開かれ、親しまれ、地域に貢献する大学を目指して努力されました。

同窓会の会員にとって、母校の活躍・発展は嬉しいもので、“さすが、母校”と、自尊の感情が湧き上がるものです。

■同窓会の中核となる取組

同総会では、母校の発展と教育文化の進展に寄与するために4つの事業を行っています。

(1) 総務部

- ① 会費の収納、経費の支出、基金管理等の会計業務を行う。
- ② 理事会・評議会などの会議の運営をする。
- ③ 卒業祝賀会やオープンキャンパス共催事業を行う。
- ④ 岐阜大学同窓会連合会等の関係組織との連携をする。

(2) 組織部

- ① 同窓会員管理業務の改善のために、外部委託の業者を選び、システムの仕様を決定する。
- ② 同窓会名簿の円滑なシステム運用を図り、各教科同窓会に協力を得ながら、名簿管理の体制を整備する。

(3) 事業部

- ① 9月～10月、県研修課と6教育事務所を訪問し、教育実践研究論文に関わる打ち合わせ等をする。
- ② 3月、第二次審査会や最終審査会を行い、最優秀賞1名、優秀賞9名、優良賞40名、新人賞20名を決定する。

(4) 広報部

- ① 広報部会で、会報の内容検討や関係の方々の寄稿の依頼をし、12月に会報第17号を配布する。
- ② 他の部会と連携を密にして、連絡・調整を図る。

■トピックス

<東日本大震災の被災地へ義援金>

3月11日の東北地方太平洋沖地震による大津波は、未曾有の大災害をもたらしました。復旧・復興の妨げになっているのが、福島第一原発の事故の深刻さです。一日も早く原発事故の収束を切に願うものです。

こうした大災害に対しまして、教育学部同窓会は、

- ・6月16日、岐阜新聞に金10万円
- ・6月29日、岐阜大学本部に金10万円

それぞれ、「東日本大震災義援金受付」に、青山前会長と江端とでお渡ししました。

<オープンキャンパス>

8月11日、開催され、約1,300名の高校生等が参加しました。教育学部の概要説明や施設見学、学生企画の“岐大ギャラリー”等があり、高校生の前向きな姿勢に感心しました。ある高校生は、「何としても教育学部に合格したい。今日は、勉強を頑張ろうという気持ちが高まった」と語っていました。岐大生も、心からサポートしている姿が印象に残りました。

<財団法人岐阜県教職員互助会から、教育文化助成金を受領>

平成23年9月28日、長良川スポーツプラザにおいて、当互助会の理事長岩田将之様より、ご寄贈いただきました。この助成金は実践研究論文の研究者の顕彰に充てさせていただきます。

平成10年度から、助成金を賜っており、衷心からお礼申し上げます。



【オープンキャンパス】

■終わりに

本会の発展のために、教育学部長様をはじめ教職員各位、とりわけ同窓会員で本学部在籍の先生方の熱きご指導とそれぞれの場で、直接・間接にご尽力賜っております多くの皆様に深く感謝申し上げます。



教育学部の現状と将来



教育学部長 江馬 諭

昭和49年度工学部卒業

■東日本大震災に直面して

平成23年3月11日に発生した地震と直後の大津波によって、多くの人命が奪われ、甚大な被害がもたらされました。学校教育に関わる者としては、大津波によって子供たちや教師が犠牲になり、また校舎の倒壊や放射能を避けるために、多くの子供たちが慣れ親しんだ学校を離れなければならない現実、筆舌に尽くせません。

この大震災がもたらした傷跡は計り知れなく大きなものですが、子供たちは、自然について、安全について、思いやりや連帯感について、耐えることについてなど、様々のことに関心が高まったと聞いています。このような子供たちの関心の高まりを学部教育においても、今後大切にしていきたいと考えています。また、ごく近い将来発生すると予測されている東海・東南海・南海地震を見据えたとき、大学だけでなく義務教育の場においても何を備えるべきか、今、冷静に考えなければなりません。

■中央教育審議会答申と大学改革

高校生の約半数が4年制大学に進学し、短期大学等も含めると「大学全入時代」が到来したと言われてます。これは、国立大学においても無関係ではありません。このような現状を踏まえて、平成20年3月25日中教審大学分科会は「学士課程教育の構築に向けて」を発表し、大学教育の質の保証と学生の到達目標の確保(学士力)を求めています。また、教員養成学部に関しては、平成23年1月31日中教審特別部会が「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」を発表し、修士レベル化を検討すべきであると提言しています。

一方、国の財政の悪化や平成16年の独立行政法人化に伴い、大学の教職員の人件費が5年間で5%削減され、今後少なくとも5年間継続される予定です。本学部においても平成16年当時と比べ平成26年には約1割の教員が減ることになります。このような現状の中で、岐阜大学

だけでなく本学部においても、社会的ニーズや教育環境の変化に対して機敏に対応することが求められております。

平成20年、多くの関係者の協力によって教職実践開発専攻(教職大学院)が設置されました。ここでは、教育現場の様々な課題を教育テーマとして、実践的な教員養成と現職教育が行われております。岐阜県教育委員会は、教職大学院修了者に対して教員採用での第1次選考試験を免除しています。また、大学院への進学者に対して採用試験合格者の名簿登載期間を2年延長しております。

平成23年度から本学部は、今後10年間における岐阜県等の教員の採用状況を見据えて、生涯教育課程の募集を停止し、教員養成に特化することになりました。また、先にお話した教員削減が直接的な動機ではありますが、大学院における教科教育専攻とカリキュラム開発専攻の改組を目下検討中です。大学院修士レベル化は簡単ではなく、実現に向けては様々な課題があります。しかし、修士レベル化が制度として導入された場合においても、柔軟に対応できるような組織となるよう取り組んでいます。

■アクトプラン・アクト支援室・進路相談室

平成17年度より、本学部は全国の教員養成に先駆けてコアカリキュラムであるアクトプラン(ACT Plan: Active Collaboration Teaching Plan)を導入しました。1年次の教職トライアルでは、附属小中学校において計4日間、授業観察を通して教職の意義や教員の役割を学習し、教師像を明確にします。2年次の教職リサーチでは、岐阜市内の小中学校(約20校)や中学校(約20校)において1週間、教職の意義、教員の役割、教育の職務についてさらに理解を深めます。3年次の教職プラクティスでは、県内の小学校(9校)、中学校(10校)、特別支援学校(7校)において1ヶ月間、教育実習を行います。4年次の教職インターンでは、県内の小学校(約20校)や中学校(約20

校)において60時間、教育現場での実践活動を通して教員としての実践力を身につけます。

このように本学部では、学生が教育現場に積極的に参加し(Active)、大学の授業と教育現場での体験から教師として必要な知識・技能を確実にする、いわゆる往還型の教育(Collaboration Teaching)を実施しております。

平成19年、この取組みが円滑に機能するようにアクト支援室を立ち上げ、岐阜県の教員を退職された校長先生(現在、安田重彦先生、大塚頼明先生、後藤信義先生)にお越しいただいております。教職実践講師の先生方は大変熱心にご指導下さり、学生からも的確な指導が得られると感謝されております。

約10年前でしたか、進路相談室(就職支援室)を立ち上げました。現在は、アクト支援室と同様に岐阜県の教員を退職された2名の校長先生(田口和男先生、吉田芙美子先生)が、教員採用試験に関連した情報収集・提供、面接指導、個別相談などで活躍いただいております。このように本学部では、大学教員・教職実践講師・進路相談員が連携して実習指導や就職活動の支援を積極的に行っています。

■就職状況

平成22年度卒業生の就職状況について、教員養成課程では164人(大学院進学者を除くと全体の79.6%)の学生が教員として、生涯教育課程では16人(51.6%)の学生が教員として就職しました。この教職に就いた学生の中には、1年間の臨時採用などの人(34.4%)も含まれていますが、近年になく多くの学生が教員として就職しました。その他、官公庁(15人)や一般会社等(17人)にも就職しています。

平成24年度の岐阜県教員募集は、昨年よりやや少なくなりましたが、小学校で約240名、中学校で約140名、高等学校で約120名、特別支援学校で約50名でした。今後十数年はこの傾向が続くと思われます。また、愛知県や名古屋市も同様の傾向が見られます。教員に関心がある学生が多く入学し、そして多くの卒業生が岐阜県あるいは近隣の教員として巣立っていくことを期待しております。

■岐阜大学基金

毎回ご案内させていただいておりますが、岐阜大学は大学基金を募集しております(URLを参照)。過日この件につきまして、財務担当の杉戸理事より「教育学部同窓会の方々から、件数と金額ともに素晴らしいご支援をいただき、感謝しています。」とのお話がありました。明治

6年に設立された師範研修学校、その後の岐阜県師範学校、学芸学部、教育学部と名前や組織は少しずつ変わりましたが、母校を誇りに思う皆様方のお気持ちの強さに改めて感謝いたしているところです。大学基金は平成26年まで継続します。今後もご支援のほど宜しく願い申し上げます。

文末になりましたが、学部長として私から皆様方にお話できるのは今回で最後になりました。本学部および大学院研究科はこれからも教員養成と教員研修を充実し、社会に貢献したいと考えております。同窓会の皆様方には、今までに多大なるご支援を頂いてまいりました。本学部の発展のために今後ともご支援、ご協力の程を宜しくお願い申し上げます。

【岐阜大学基金】
<http://www.gifu-u.ac.jp/view.rbz?cd=1012>

平成23年度

岐阜大学教育学部同窓会役員

■ 会長

江端 雅司 (S37 史学)

■ 副会長

後藤 忠喜 (S38 数学)

西村 覺良 (S39 史学)

中村 美幸 (S40 英語)

村瀬康一郎 (S53 数学)

■ 幹事 (◎部会長 ○副部会長)

総務部会 (担当副会長 村瀬康一郎)

- ◎ 村瀬康一郎 (S53 数学)
- 田口 勝行 (S40 体育)
- 吉田 芙美子 (S41 英語)
- 山本 讓 (S48 法経)
- 後藤 信義 (S47 英語)
- 棚橋 弘 (S48 音楽)

組織部会 (担当副会長 西村 覺良)

- ◎ 加藤 直樹 (S54 物理)
- 松岡 博 (S43 物理)
- 安田 重彦 (S43 数学)
- 国枝 俊介 (S44 美術)
- 興戸 律子 (S54 数学)

事業部会 (担当副会長 後藤 忠喜)

- ◎ 田口 和男 (S43 生物)
- 高田 哲夫 (S41 数学)
- 小森 正子 (S41 家政)
- 柴田 秀夫 (S44 体育)
- 浅野 佳正 (S46 数学)

広報部会 (担当副会長 中村 美幸)

- ◎ 辻 泰秀 (S55 美術)
- 大塚 頼明 (S43 国語)
- 小牧 壽 (S45 地理)
- 吉田 政直 (S47 体育)
- 今井 亜湖 (H10 技術)

■ 監査

- 野村 武宏 (S39 物理)
- 古田 保 (S42 数学)
- 川瀬 喜生 (S45 数学)

評 議 員

大学系		
国文	藤根 隆	S63
	村山 邦博	S63
	吉永 康昭	H5
史学	富山 哲成	H8
	吉田 雪絵	H8
	西村 覺良	S39
	小川 敏雄	S40
	友田 靖雄	S40
地理	丹羽 柳三	S42
	赤塚 邦芳	S43
	松田 孝弘	S36
	小牧 壽	S45
	小林 直樹	S50
法経	豊島 博	S58
	堀江 秀樹	S58
	山本 讓	S48
	井森 宗吉	S51
	村井 俊之	S56
哲学	坂野 隆	S58
	丸山 靖生	H3
	近藤 新八	S43
	柘植 卓伸	S52
	国定 幸敏	S53
数学	柘井奈津子	H元
	奥村 直也	H5
	秋山 健	S36
	後藤 忠喜	S38
	内田 一之	S43
物理	宮脇 恭顕	S43
	熊崎 盛敏	S55
	奥田 好紀	S56
	若曾根 隆	S58
	堀部 昇	S61
化学	市原 隆行	H2
	竹腰 宣行	H3
	柘植 良雄	S50
	森 社	S51
	小柳 欣也	S51
生物	佐藤 伸幸	S53
	服部 公彦	S57
	安藤 志郎	S43
	大野 伴和	S52
	井上 好章	S53
渡辺 寛樹	H9	
細江 達三	H18	

大学系		
地学	小栗 敬彦	S42
	山元 敏治	S45
	岩田 将之	S48
	大平 柳一	S49
	水谷 憲司	S55
音楽	斎藤満里子	S44
	棚橋 弘	S49
	村下 香苗	S50
	三本木陽子	S51
	杉本 公彦	S61
美術	酒井 賢	S34
	高木 文夫	S35
	長谷川 清	S37
	國枝 俊介	S44
	安江 次郎	S50
体育	中村 博巳	S39
	田口 機子	S40
	石子 裕朗	S45
	岡部好四郎	S52
	谷端 良夫	S55
技職	宮本 英洋	S39
	伏屋 敬介	S46
	高橋 忠明	S49
	吉田 竹虎	S63
	淀川 雅夫	H8
家政	杉山 恵子	S48
	清水 優子	S50
	有尾 陽子	H5
	大畑 恵美	H6
	伊藤 有里	H7
英語	中村 美幸	S40
	古沢 哲男	S42
	高橋 克	S50
	深尾 雅人	S57
	山下 敦子	S60
教育	加藤 芳憲	S33
	森川 士朗	S34
	古田 重行	S37
	国島 和憲	S43
	中村 正信	S43

師範系		
師範男子	森 俊朗	S13
	宮川登喜夫	S14
	渡邊 啓市	S16
	西脇 成紀	S20
	田口 謙介	S22
師範女子	宮脇 修	S24
	安藤 俊夫	S25
	松岡 茂喜	S25
	苅谷かほる	S11
	富田 君江	S15
青年師範	高井 玉枝	S15
	大前 美子	S16
	田中 良泉	S17
	新井 規子	S18
	所 家子	S19
青年師範	野中 和子	S20
	小倉三千子	S23
	安藤 雅子	S24
	恩田 千束	S25
	横山 貞二	S18
	安田 嗣朗	S21
	村上 實	S22
	内田 英夫	S23
	森 壽子	S23
	石田 幸彦	S24
大野 幸子	S25	
服部 真六	S26	

理 事

大学系		
国文	曾我部領史	H8
史学	高木 秀之	S31
地理	松田 孝弘	S36
法経	大平 橘夫	S40
哲学	谷本 龍馬	S50
数学	堀部 邦雄	S36
物理	鈴木 雅史	S50
化学	華井 章裕	S46
生物	小椋 郁夫	S49
地学	小島 理生	S39
音楽	棚橋 弘	S49
美術	石原 通男	S32
体育	奥村 収	S32
技職	宮本 英洋	S39
家政	野村 令子	S34
英語	中舎美津男	S34
教育	堀井 恕直	S34
師範系		
男師	宮脇 修	S24
	安藤 俊夫	S25
女師	安藤 雅子	S24
青師	内田 英夫	S23
	石田 幸彦	S24

平成23年

岐阜大学教育学部同窓会評議会報告

日時 平成23年6月4日 13時30分から
 場所 教育学部本館7階 第一会議室
 出席者等 評議員115名（内委任状出席90名）、理事26名
 会議 議事については、議長として松田孝弘副会長を選出し、以下の事項について審議した。

①平成22年度事業報告

村瀬総務部会長、加藤組織部会長、田口事業部会長、辻広報部会長から資料に基づき報告があり、これを承認した。

②平成22年度決算報告

後藤総務部副副会長から22年度の会計決算報告がなされた。

③会計監査報告

秋山会計監査から、会計監査の結果、予算の執行管理等適切になされている旨の報告がなされた。
 審議の結果、報告の通り22年度決算が承認された。

④次期同窓会長選出について

会長推挙委員会西村委員長より、次期会長に江端雅司氏を推挙する旨の報告及び推挙理由についての説明がなされた。
 これを受け、審議の結果、江端雅司氏を次期会長として決定した。

⑤新同窓会長挨拶及び新役員の承認・紹介

江端雅司氏の挨拶の後、新役員の提案があり、これを承認した。

⑥旧役員退任の挨拶

青山勉旧会長、松田孝弘旧副会長より退任の挨拶があった。

※※※役員交代※※※

⑦平成23年度事業計画

村瀬総務部会長、加藤組織部会長、田口事業部会長、辻広報部会長から各部の事業計画の提案がなされ、これを承認した。

⑧平成23年度予算審議

村瀬総務部会長から、23年度予算についての提案がなされ、これを承認した。

⑨その他

平成23年3月に定年退職され、長年に渡り岐阜大学教育学部同窓会をお世話して下さった岩田名誉教授より挨拶があった。

平成22年度教育学部同窓会決算報告

●一般会計

＜収入の部＞	科目	決算金額
	前年度繰越金	3,926,276
	同窓会費	7,860,000
	雑収入	1,910
	合計	11,788,186

＜支出の部＞	科目	決算金額
	運営費	2,343,978
	庶務費	1,362,000
	事務管理費	487,892
	役員会費	412,910
	通信費	57,940
	渉外費	15,646
	交通費	7,590
	組織活動費	1,280,970
	名簿管理費	724,145
	名簿作成助成費	30,525
	同窓会入会式費	526,300
	学部援助費	191,360
	事務援助費	69,720
	記念庭園管理費	0
	教育文化助成費	121,640
	事業活動費	1,628,744
	成果刊行費	796,425
	会議費	604,232
	事務費	228,087
	広報活動費	1,836,362
	印刷費	1,293,609
	通信費	542,753
	次年度繰越金	4,506,772
	合計	11,788,186

●事業活動基金

＜収入の部＞	科目	決算金額
	繰越金	45,575,109
	利息	38,021
	合計	45,613,130

＜支出の部＞	科目	決算金額
	次年度繰越金	45,613,130
	合計	45,613,130

●教育実践事業基金

＜収入の部＞	科目	決算金額
	繰越金	4,596,354
	利息	2,519
	寄付金	200,000
	合計	4,798,873

＜支出の部＞	科目	決算金額
	教育実践論文顕彰費	390,000
	次年度繰越金	4,408,873
	合計	4,798,873

平成23年6月4日評議会で承認済み。

平成22年度

教育学部同窓会活動報告

月	総務部会等	組織部会	事業部会	広報部会
4	7 教育学部同窓会説明会 (新入生の保護者向け)		<ul style="list-style-type: none"> ● 第25集印刷開始 ● 教育研修課との打合せ ● 臨時部会；数回 	
5	15 運営委員会 21 監査 25 監査		<ul style="list-style-type: none"> ● 第25集発行 ● 第26集に係る教育研修課への依頼 	
6	1 同窓会連合会 5 理事会・評議会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育学部同窓会住所不明者一覧表の作成決定,着手 	<ul style="list-style-type: none"> 3 第25集配布作業 ● 教育事務所長会, 県小中校長会役員会に協力依頼 ● 県教委へ後援申請 	<ul style="list-style-type: none"> 5 第1回部会 ● 担当分担, 細部打合せ
7		<ul style="list-style-type: none"> ● 各学科同窓会事務局へ不明者調査依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ● 県教職員互助会へ助成金申請 	<ul style="list-style-type: none"> ● 担当者より会報の原稿の作成依頼
8	4 拡大運営委員会 9 教育学部同窓生の集い (オープンキャンパス共催事業)			<ul style="list-style-type: none"> ● 執筆者の原稿作成 ● 会報の原稿集め
9		<ul style="list-style-type: none"> ● 名簿データ修正 		<ul style="list-style-type: none"> ● 印刷業者の選定
10		<ul style="list-style-type: none"> ● 不明者一覧表の原稿の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育事務所訪問 ● 総合教育センター長訪問 	<ul style="list-style-type: none"> ● レイアウト, 挿絵, 配置など ● カレンダー仕様の打合せ
11		<ul style="list-style-type: none"> ● 不明者一覧表の原稿の校正 	<ul style="list-style-type: none"> ● 審査依頼；都市教育長, 会長, 町村教育長会長, 県小中校長会長, 同小校長会長, 同中校長会長 	<ul style="list-style-type: none"> 5 第2回部会(編集会議) 17 第3回部会(編集会議) ● 会報の原稿の校正(初校) ● カレンダー作成作業
12		<ul style="list-style-type: none"> ● 不明者一覧表完成 ● 教育学部同窓会住所不明者一覧表配布 		<ul style="list-style-type: none"> ● 会報の原稿の校正(2校) ● 同窓会報第16号発行・発送
1	7 拡大運営委員会	<ul style="list-style-type: none"> ● 会員からの情報により逐次修正していく 	27 事業部会	<ul style="list-style-type: none"> ● カレンダー原稿入稿
2	19 運営委員会	<ul style="list-style-type: none"> ● 同窓会員情報変更ハガキの作成・印刷 	15 論文概要入手, 予備審査, 最終審査資料作成	<ul style="list-style-type: none"> ● カレンダー完成
3	19 臨時理事会 25 教育学部同窓会入会式及び卒業生との懇親会	<ul style="list-style-type: none"> ● 卒業生への同窓会員情報変更ハガキの配布 	<ul style="list-style-type: none"> 1 第二次審査会 15 最終審査会 ● 教育実践研究入賞論文集-第26号-発刊手続き開始 	<ul style="list-style-type: none"> ● カレンダーの配布



平成22年度教育実践研究助成事業の報告

事業部会長 田口 和男

昭和43年度生物地学科（生物）卒業

1. はじめに

今年度も、各学校の校長先生方の教職員への働きかけのもと教育実践が論文としてまとめられ、市町村教育委員会、各教育事務所単位で審査をいただいた後、3月上旬に県総合教育センターにおいて教育研修課のご指導の下、第2次審査会を行い、最終審査会（平成23年3月15日）を前にして、その準備を整え終えた時、あの未曾有の大震災が起きました。連日テレビ等からあの悲惨な映像等が目に入ってくるたびに、今この時期に県内の義務教育の中核に携わっておられる方々にお集まりいただくことが良いことなのか、ましてや県の教育委員会も危機管理体制に入ってみえる時に行政の方も含めてお集まりいただくことが良いことなのかと、本当に迷いました。

そのような中、青山会長さんの「これから、日本を背負って立つ子どもたちのための教育の実践研究について考えあうことが今大切でないか。」「自ら問題に立ち向かい解決していく子どもを育てることが今こそ大切でないか。」等々のご意見をいただき、予定通り最終審査会を実施することができました。

最終審査会では学識経験者（岐阜大学教育学部教授）、県教育研修課企画監と課長補佐、6教育事務所長と教育支援課長、県都市教育長会長・町村教育長会長及び県小中学校長会長と県小・中学校長会長が参加され、慎重且つ厳正に審査を行っていただきました。岐阜県の小中学校関係で、これだけのメンバーの方々が一堂に会して審査される会は他に例がないことを報告させていただくとともに、このような礎を創っていただいた岐阜大学教育学部同窓会の先輩の諸氏に心より感謝を申し上げます。

2. 応募状況とその傾向

平成22年度の応募状況の詳細は、表1、表2のとおりです。

（表1）

地区	校種	職種別										年代別					性別		
		校長	教頭	主幹教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭	事務職員	講師	A・L・T等	小計	20代	30代	40代	50代	小計	男性	女性	小計
総計	小	11	8	1	724	15	5	4	21	1	808	311	227	184	86	808	377	424	801
	中	1	1	2	435	13	0	2	17	0	489	207	183	76	23	489	312	184	496
	計	12	9	3	1195	28	5	6	38	1	1297	518	410	260	109	1297	689	608	1297

（表2）

地区	校種	領域別（論文数）																				総計（編）		
		教科											教科以外											
		国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図美	技家	保体	英語	小計	道徳	特別活動	総合学習	外国語活動	学級経営	生徒指導	特別支援	健康安全	管理経営	その他	小計	
総計	小	149	71	141	42	21	31	17	8	48	6	534	47	23	9	16	45	8	52	21	20	30	271	805
	中	48	47	68	49	0	11	17	16	35	64	355	9	16	7	0	32	6	12	12	3	9	106	461
	計	197	118	209	91	21	42	34	24	83	70	889	56	39	16	16	77	14	64	33	23	39	377	1266

3. 審査会の動向

審査の観点は次のとおりです。

- (1) 教育の今日的な課題を踏まえ解決の方向が明確になっているか。
- (2) 教育現場に密着して、目標、計画、指導、評価の一体化が図られているか。
- (3) 児童生徒の成長や変容の姿がよく表れているか。
- (4) 研究及び実践内容に創造性・妥当性が見られ、説得力のある論文であるか。
- (5) 教育実践・研究論文として明確な表記であるか。

これらの観点には18の評価の窓があり、例年同様、厳正に審査が行われました。



【審査会の様子】

その結果5つの観点においてすべて満点であった岐阜市立長良東小学校の伊藤智裕教諭の論文

「社会的な見方や考え方を身に付け、生活へ広げる子が育つ社会科学習」
～つまずきを持つ子どもに対する効果的な指導・援助のあり方～

が最優秀賞に選ばれました。

伊藤教諭の論文は児童が社会的な見方や考え方を身に付け、児童自身の生活へと広げて、社会的事象の意味を捉える姿を願い、4年間の実践を積み重ねた研究です。また、すべての児童が、教科の目標に示されている「社会生活についての理解」をすることができるよう、試行錯誤しながら効果的な指導・援助の手立てを見いだした点が大いに評価できます。特に次の点において優れています。

- ① 地域・時代・社会の課題解決に向けて工夫・努力した魅力ある人々を単元の中核に据え、教材開発が行われている。
- ② 「深める過程」において生まれる個のつまずきを事前に予想し、タイプ分けして、つまずきの状況に応じた手立てを講じている。
- ③ すべての児童が、身に付けた社会的な見方や考え方を生活に広げ、社会的事象の意味を捉えることができるよう、「活用する過程」の仕組みに力点を置いた。



【最優秀賞の表彰】

4. 今後に向けて

二次審査会、最終審査会の審査員の方から今後に向けて取り組むべき力点について次のような示唆をいただきました。

- ・つけるべき力と年間や単元の見通しを明確にすること
- ・1時間ごとのつながりにおいて、指導内容の系統性を踏まえること
- ・単位時間ごとの評価基準を具体化し、ねらいを明確にすること
- ・児童生徒の変容について具体的に示すこと
- ・個や集団に対して、主体的に学ぶ意欲や態度を高める工夫をすること
- ・個の力が、どれだけ付いたのかを検証をすること



【青山同窓会長の挨拶】

最終審査会の審議の中での審査員の所感は、岐阜大学教育学部同窓会が主催する教育実践研究助成事業に対する評価と今後の期待の表れであると受け取ることができます。昭和58年の岐阜大学統合記念事業として始まったこの事業は、岐阜県の小中学校の教職員の資質と指導力の向上、併せて義務教育の充実や発展に大きな役割を果たしてきました。私たち事業部は今後も一層事業内容を充実し、岐阜県の小中学校の教育の充実に寄与すべく教育実践研究助成事業の運営に誠心誠意あたりたいと願っています。

最後になりましたが、『教育実践研究入賞論文集一第25集一』の刊行に当たり、岐阜県教育委員会をはじめ市町村教育委員会、岐阜県小中学校校長会のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

なお、平成10年度から今日に至るまで、当事業推進のため、財団法人岐阜県教職員互助会から教育文化助成金をいただいていることを追記します。

第26回(平成22年度)岐阜県小中学校

教育実践研究論文受賞者一覧

最優秀賞(1編)

岐阜市・長良東小	伊藤 智裕	社会的な見方や考え方を身に付け、生活へ広げる子が育つ社会科学習 ～つまづきをもつ子どもに対する効果的な指導・援助の在り方～	〈社会〉
----------	-------	--	------

優秀賞(9編)

岐阜市・長良東小	澤村 秀彦	自ら問題を見だして追究し、科学的な見方や考え方が育つ理科学習の在り方 ～系統性と必然性を大切にし、科学的な言語を駆使した学習活動の充実に重点をおいて～	〈理科〉
岐阜市・長良西小	高木 寛之	自らよりよい動きを求め続けていく子が育つ体育学習 ～「器械運動」の実践を通して～	〈体育〉
垂井町・表佐小	押谷 亜紀	一人一人の「読み取る力」を育てる音読の在り方	〈国語〉
大垣市・興文中	長瀬 正義	科学的な見方や考え方を育む理科指導 ～仲間と練り合い高め合う生徒の育成～	〈理科〉
関市・桜ヶ丘中	片桐 紀子	コミュニケーション能力の育成を目指して ～「中1ギャップ」に配慮した第1学年英語指導の在り方～	〈英語〉
御嵩町・伏見小	宮崎 大輔	確かな考えをもち、仲間と関わり合って学べる児童の育成 ～国語科における文学教材の授業改善を通して～	〈国語〉
恵那市・山岡中	伊藤 政之	仲間との主体的なかかわり合いを通して、話す力・聞く力が育つ国語科学習	〈国語〉
中津川市・坂本小	松村 香里	確かな読みを活用し、豊かに表現する児童の育成	〈国語〉
高山市・東小	小西 香織	互いに認め合い、仲間と共に高め合う学級経営 ～特別支援が必要なA児を核とした体育学習を通して～	〈学級経営〉

優良賞(40編)

岐阜市・加納小	上出 尚子	「家庭生活を大切にする子」を目指して ～生活を工夫する力が高まる授業を通して～	〈家庭〉
岐阜市・柳津小	森 真由子	自己を見つめ、自分や仲間のよさを自覚し、共によりよい生き方へのあこがれを抱くことができる道徳の時間 ～人権教育を踏まえて～	〈道徳〉
岐阜市・加納中	松原 元樹	互いに鍛え合い、自ら治める力を育てる学年指導 ～学年生徒会におけるリーダー指導を重点として～	〈特別活動〉
羽島市・足近小	岩田 睦巳	「思考力・判断力・表現力」の3つの力を高める社会科学習 ～「調べて表現する」から「調べて考えたことを表現する」へ～	〈社会〉
羽島市・中央小	西 薫	体いっばいで感じながら児童がつくりだす喜びを味わう低学年図画工作科授業の在り方 ～体験と仲間との言語活動を通して～	〈図画工作〉
各務原市・桜丘中	川瀬 秀樹	主体的に自然を探究し、思考力・表現力を高める生徒の育成 ～理科における学び方を活用させながら、科学的な見方や考え方を養う指導を通して～	〈理科〉
各務原市・蘇原第二小	鷲見 隆司	段階的な支援による不登校の改善	〈生徒指導(教育相談)〉
各務原市・鶯沼第三小	橋本 舞	理解力と表現力を高める国語科授業のあり方 ～6年生「読むこと」領域での実践を通して～	〈国語〉
山県市・いわ桜小	永井 英樹	習得すべき技能と指導の手立てを明らかにして、伝え合う力を高める国語科指導の工夫 ～音読とメモリーツリーの指導を核に～	〈国語〉
瑞穂市・本田小	堀 正樹	一人一人が自己の生き方についての考えを深める学級経営をめざして ～仲間とのよりよい人間関係づくりを通して～	〈学級経営〉
本巣市・真桑小	安井 春美	仲間とのかかわり合い進んでコミュニケーションを図る児童の育成 ～一人一人が課題をつかみ学びを生かしたコミュニケーション能力の素地を養う授業の確立～	〈外国語活動〉
笠松町・笠松小	樋口 敦子	歯と口の健康についての意識を高め、基本的な生活習慣を身に付け、自ら進んで健康な生活を目指す子どもの育成	〈健康安全〉
北方町・北方西小	星野 友多	よりよい人間関係を自ら育む学級づくり ～3年生での2年間の実践を通して～	〈特別活動〉
垂井町・府中小	西脇 ひろみ	思いや願いをもって表現し続ける子が育つ音楽指導	〈音楽〉
大垣市・星和中	高橋 篤	伝え合う力を高める国語科の学習指導の在り方 ～伝え合う基本的スキルを身に付けた生徒の育成～	〈国語〉
安八町・結小	安田 智子	自己を見つめ、よりよい生き方を求めて実践する子の育成 ～道徳の時間と他の教育活動との関連を通して～	〈道徳〉
大垣市・星和中	富田 泰仁	生徒の言語感覚を豊かにする学習指導の在り方 ～「言語感覚の豊かさ」に焦点を当て、「表現から理解」につなげる国語科単元学習の創造～	〈国語〉
関ヶ原町・関ヶ原小	中村 薫	仲間と関わり、自分の思いを進んで表現できる子をめざして ～話すことの苦手なA児への指導を通して～	〈特別支援〉
池田町・八幡小	中島 勝義	意欲的に課題や願いを追究し、主体的に学習に取り組む子の育成 ～科学的なものの見方や考え方を高める理科学習の在り方～	〈理科〉
池田町・宮地小	古田 伸二	社会的現象の意味を意欲的に追究し、社会とのかかわりを実感することができる子の育成 ～社会的な見方や考え方を高め、自己の生き方との関連を図った社会科教育の実践を通して～	〈社会〉
海津市・高須小	安藤 理恵	自分の思いや考えを豊かに表現し、伝え合う喜びを感じるこのことのできる子の育成 ～国語科「話すこと・聞くこと」を通して～	〈国語〉

郡上市・八幡小	遠藤 智和	科学的な追究と実感を伴った理解を生み出す理科学習の創造	〈理科〉
郡上市・八幡中	市原 隆行・瀧 祐	自然を楽しみながら、科学的に探究する能力や態度をはくむ学習指導 ～豊かに表現しながら、主体的に探究する生徒を育成するための単元カードや指導方法の工夫～	〈理科〉
関市・旭ヶ丘小	横井 大輔	仲間同士が互いを大切に思い合える学級集団の育成 ～命の大切さへの気付きを通して～	〈学級経営〉
郡上市・牛道小	武藤 恵里佳	互いの思いを伝え合うよさに気付き、コミュニケーションを図る楽しさを実感できる児童の育成 ～どの子も生き生きとコミュニケーションを図る授業をめざして～	〈外国語活動〉
可児市・東明小	渡邊 茜	自分の考えを表現するための国語科学習指導の在り方 ～伝えたいことを明確に書くことと書く楽しさを知る学習を通して～	〈国語〉
白川町・白川小	横山 美智代	学校の中核となる読書センターをめざして ～小規模校における図書館経営と図書主任の役割～	〈図書館経営〉
美濃加茂市・太田小	細川 純	仲間の思いから自己の生き方について考えを深め、自己を生かす能力を高めるための学級活動の在り方 ～『6-2=1(ひとつつ)』の実践を通して～	〈特別活動〉
美濃加茂市・山之上小	西田 美代子	自分の感性を生かして進んで創造活動に取り組み、表現することへの喜びを味わうことができる子の育成 ～2年生図画工作科「見て、見て、おはなし」の実践を中心に～	〈図画工作〉
多治見市・脇之島小	酒井 統康	わかる喜びのある授業 ～数学的な表現力を活用し、考えを比べながら伝え合う児童の育成～	〈算数〉
土岐市・泉中	長谷川 浩子	学ぶ楽しさを実感できるコミュニケーション活動のあり方 ～学んだことを活用する学習活動の工夫を通して～	〈英語〉
瑞浪市・瑞浪小	藤井 志保	生命尊重の態度を育てる理科教育の在り方 ～どんな生命にもつながりがあることに気付き、生命の大切さを実感する児童の育成～	〈理科〉
多治見市・笠原小	土松 真理子	目的をもって、豊かにコミュニケーションを図ろうとする児童の育成 ～第5学年「未来に提案!こんな車いかがですか」の実践を通して～	〈外国語活動〉
瑞浪市・瑞陵中	小山 智哉	時事に関心をもち、社会的なものの見方や考え方を深める生徒の育成	〈社会〉
中津川市・落合小	西尾 大輔	社会的現象の意味を主体的に追究し、自らの生き方をつくり出す子の育成	〈社会〉
恵那市・上矢作小	高森 恵	伝え合う力を身につけ、活用ができる子の育成 ～少人数学級1年生の実践から～	〈国語〉
高山市・丹生川小	安井 恵子	創って踊る楽しさや喜びを味わう体育学習の創造 ～6年生の表現運動「雑草とアスファルト」の実践を通して～	〈体育〉
飛騨市・河合小	古嶋 恭子	特別支援学級における教科指導の本質に迫る学習過程の工夫 ～通常学校における特別支援学級の教育活動のあり方～	〈特別支援〉
下呂市・萩原北中	今井 鉄也	子どもたちの《安全・安心・笑顔》を支援する学校事務 ～標準的職務内容を全職員と意思を伝え合って協働し、学校の教育目標の具現を図る～	〈管理経営〉
下呂市・東第一小	古守 智美	自律的な歯・口の健康づくりができる子の育成 ～意識を変容させるために家庭や児童へ働きかけた4年間の実践～	〈健康安全〉

新人賞(20編)

北方町・北方西小	秋山 真央	豊かなコミュニケーション能力を身につけた子どもの育成 ～コミュニケーションを生むための活動の工夫～	〈外国語活動〉
山県市・高富小	江崎 直美	自分の願いをもって主体的に活動し、気付きの質を高める子の育成 ～生活科の授業改善を通して～	〈生活〉
本巣市・弾正小	上條 亘	豊かに表現する子を育てる国語科学習の在り方 ～文学的な文章におけるコミュニケーション能力の育成～	〈国語〉
岐阜市・木田小	嶋田 裕子	「食育」を推進するための教育環境、教育体制のあり方 ～学校及び家庭の「食育に関わる意識とQOL(生活の質)を向上させるには～	〈食育〉
輪之内町・仁木小	柘植 直人	子どもが生き生きと取り組む体育科の学習指導 ～ハードル走を通して～	〈体育〉
輪之内町・輪之内中	伊藤 智子	自画像の制作を通して表現の基礎能力を高める	〈美術〉
大垣市・興文小	瀬古 知世	主体的に英語を学び、考えながら自分の思いを英語を使って表現するコミュニケーション能力の基盤の育成	〈英語〉
郡上市・白鳥小	瀬瀬 奈々	社会的なものの見方の基礎・基本を育て、学ぶ楽しさを味わえる社会科学習 ～言語活動の充実を通して～	〈社会〉
美濃市・美濃小	川尻 美奈	自らの考えをもち、主体的に学ぶ児童の育成 ～考える力・表現する力を付ける国語科の実践を通して～	〈国語〉
美濃加茂市・山手小	堀 祐太郎	児童の思考力・表現力の育成のためのイメージ図を利用した言語活動の在り方 ～見えないものを見えるイメージにする活動を通して～	〈理科〉
可児市・広見小	今尾 朋香	児童の成長を価値づけながら、共に「歩む」学級経営の実践 ～所属感を高め、個が生きる集団 活動を通して～	〈学級経営〉
七宗町・上麻生中	江口 友之	全ての生徒ができた喜びをあげよう数学の授業	〈数学〉
御嵩町・御嵩小	木村 健太郎	「楽しい体育」の授業づくり ～運動する楽しさと喜びを味わう 器械運動を目指して～	〈体育〉
中津川市・落合小	亀山 理恵子	身近なものや人との関わりを通して得られた気付きの質を高め、よりよい生活をつくり出す子の育成	〈生活〉
恵那市・上矢作中	井森 早希子	一人一人に確かな学力を育てる入門期の英語学習 ～三人称単数現在形を理解し、英語で人物紹介ができる生徒の育成を目指して～	〈英語〉
多治見市・養正小	野村 麻衣	仲間を大切にしてかわりを求め、コミュニケーションを楽しむ子 ～自分の思いを伝えるための強調と相手を理解するための聞き返し～	〈外国語活動〉
恵那市・吉田小	坪屋 真世	自分達で学ぶ授業作り ～複式学級における算数科学習を通して～	〈算数〉
中津川市・坂本中	勝野 洋輔	モデルと関連付けて考え、自ら学ぶ生徒の育成 ～第2学年「化学変化と原子・分子」の学習指導を通して～	〈理科〉
高山市・東小	柘植 一輝	規律があり、思いやりの心を育てる学級経営 ～集団の高まりと要支援児童Aの変容～	〈学級経営〉
下呂市・萩原南中	大平 樹奈	自分の思いにこだわり、自ら表現を追求していきける生徒の育成 ～小学生から中学生への発達段階をふまえ、どの子にも楽しさを感じられる美術科指導を目指して～	〈美術〉

教育学部の取組

岐阜大学教育学部の 教員養成

岐阜大学教育学部の教員養成プログラムであるACT(アクト)プランは、平成17年度入学生から本格実施されました。「Active Collaboration Teaching」の頭文字をとって名付けられたACT(アクト)プランに基づいて教育実習し教壇に立った最初の卒業生は、平成21年度4月から着任していることとなります。大学での講義と教育実習の連携による実を手にして教師となった卒業生たち、それに続く後輩たちをどうかよろしく願いいたします。

1年生 教職トライアル

大学生になってほぼ一か月後、早くも附属小・附属中学校での観察型の実習のスタートです。小・中、各2回の授業観察と、それをもとに質疑・討論し、学びの深めをします。

事前の附属小・附属中の教頭先生の講義を受けた実習生のレポートから

- ・「児童が育っていくのが楽しみ」とおっしゃったことにとっても共感。自分が教師になりたい理由のほとんどがこれ。今まで、自分は中学校か高校の教師に、と思っていたが、今回のお話をうかがって、小学校もいいのでは、と思った。紹介された小学生のレベルが自分の想像を超えて高いことを知ることができてよかった。
- ・「叱るときは、次にその生徒をどんなときにどのようにほめるかということまで考えて叱らないといけない」という言葉が印象に残った。もう一つは、「教師は、生徒にどれだけ裏切られても、決して生徒を裏切ってはならない」という言葉だ。この言葉を胸に、真剣に励みたい。

2年生 教職リサーチ

9月に岐阜市内の小学校と中学校で、それぞれ一週間ずつの参加型の実習をさせていただいています。運動会・体育大会などの学校行事を、どんなねらいと計画のもとに児童生徒の活動を仕組み、気運を高めて成功に導くかなどを学ばせていただいています。また、安全指導、熱中症予防なども目の当たりにしながら体験を積んでいます。



プログラム「**アクト**プラン」の紹介

臨床実践講師

安田重彦

昭和43年度 数学科卒業

大塚頼明

昭和43年度 国語国文科卒業

後藤信義

昭和48年度 英語英文科卒業

3年生 教職プラクティス

以前は4年生で行われていた小学校・中学校でそれぞれ4週間通しての教育実習です。いよいよ、自分が授業者となることへの緊張感と期待感を高めながら築き上げる日々。教師となる道を進むか、どうか決めかねている学生も、目の前の児童生徒に向き合ってベストを尽くすことで進路を決断しようと、真剣に臨んでいます。実習時期は9月(中学校), 11月(小学校)です。

23年度の教職プラクティス実習校

岐阜市内の各実習校。西濃管内では、興文小学校・興文中学校。美濃管内では、桜ヶ丘小学校・桜ヶ丘中学校。東濃管内では中津川南小学校・泉中学校。飛騨管内では高山市北小学校・日枝中学校。

上記のほかに、各特別支援学校・岐阜市立幼稚園で実習をさせていただいています。



4年生 教職インターン

3年生までの講義や実習を通して、さらに実際に学校で深めたいというテーマ・課題を手にした学生が自らの希望によって行う実習です。

平成23年度は、98名の4年生が県内各地の学校で教職インターンの実習をさせていただきました。インターン生の中には、小学校・中学校時代の恩師に出会って、鍛えていただいたり、励ましていただいたりした者もあり、充実した貴重な学びの機会となっています。インターン生は、教師になろうと決心している学生たちですので、「このまま、この学校の職員になってほしい」と声を掛けていただく場合もあり、教員採用試験の合格率も高い傾向があります。

平成23年度、岐阜大学と連携協力を結んでいて教職インターンを受けていただけるところは、下記の通りです。(出身学生などがない年度もありますので、必ず毎年インターン生を配置できているわけではありません。)

岐阜市・羽島市・各務原市・山県市・瑞穂市・本巣市・羽島郡二町(笠松町・岐南町)・北方町・大垣市・海津市・垂井町・関ヶ原町・神戸町・関市・美濃市・美濃加茂市・可児市・瑞浪市・高山市。

ACT(アクト)プランに基づいて、県内各地の学校で実習させていただいている学生たちを、厳しく、温かく指導・育成していただいておりますこと、衷心より感謝申し上げます。今後ともお力添えくださいますよう、お願いいたします。

機会を設けて教育学部3階のアクト支援室にお立ち寄りいただければ幸いです。

ACT支援室 電話：058-293-2319

E-mailアドレス： 安田 pt41118326@gifu-u.ac.jp

大塚 pt41118335@gifu-u.ac.jp

後藤 pt41129307@gifu-u.ac.jp

新人先生
奮闘記

笑顔の輪の中で

中津川市立坂本中学校 柳原 里香

平成21年度 数学教育講座卒業

私は教師になる前、学校は子どもと先生の笑顔であふれる場所だと考えていました。そして、そんな温かい場所で働きたいと思い、教師という道を選びました。教師として働く中で、考えていたとおり私は子どもたちや先生方の笑顔・感動の輪の中に自分もいることを実感することができました。

全てが初めての連続だった1年目。数学の楽しさを1人でも多くの子どもたちに伝えたいという一心で教科指導に全力を注いだ1年でした。うまくいかないこともありましたが、自分が数学に真剣に向き合えば向き合うほど、子どもたちが「わかった」と眩しいくらい笑顔を見せて応えてくれました。それが本当に嬉しくて、また明日もがんばろうと思うことができました。

部活動では、女子バスケットボール部の顧問をしています。部活動では、たくさんの感動があります。顧問になったばかりの頃は、バスケの指導ができない自分に何ができるだろう、どう生徒たちと関わっていけばよいのだろうと悩み、部活動に行く気がせず、嫌な気持ちでいっぱいでした。そんなとき、ある先生から「まずはまっすぐぶつかってみればいい」と言っていただいたことで、自分の気持ちが変わりました。自分が生徒との間に壁を作っていたのだと気付いたのです。また先輩の先生方に相談することの大切さも学びました。

うまくなくても子どもたちと一緒に体を動かして、声を出して、どんどん子どもたちに声をかけて、一緒に笑って、そうしている間に子どもたちとの距離が縮まっていくのを感じました。試合では、全員が全力でプレーし、悔し涙も、嬉し涙も共に経験してきました。この感動は、一人一人が課題を持ち、厳しい練習を乗り越えてきたからこそとも得られるものです。特に、1分1秒が勝負を左右するような緊迫した試合では、子どもたちだけではなく保護者も教師もコーチも、チーム全員が興奮の渦に包まれて一体となり、勝利が決まった瞬間にはこれまで経験したことのないほどの感動を味わうことができました。まっすぐぶつかり合い、一生懸命勝利に向かって励む子どもたちから、私は多くのことを学びました。

2年目になった今、私は1年生の学級担任をさせていただいています。学級経営の難しさを感じながら日々過ごしていますが、1年目に教科指導・部活動指導を通して学んだことが今の私の学級経営を支えているように感じます。今、私は「みんな」ではなく「一人一人」に目を向け、子どもたちと多く関わり、信頼関係を築くことを大切にしています。わからないことも多く、発見の連続ですが、これからも子どもたちと一緒に成長していけるよう励んでいきたいと思っています。

ようやく実現し始めた自分の夢です。これまで支えてくださった方、支えていただいている方に感謝の気持ちをもって、今自分にできることを精一杯がんばっていきます。



教員をめざす
皆さんへ

子どもたちの笑顔のために

岐阜市立長良西小学校 高木 寛之

平成14年度保健体育講座卒業

「やったあ！できるようになった！」「先生、見て見て。前よりも上手くなったよ！」

子どもたちが「できる喜び」を感じた時の笑顔を見ることは、私にとって大きな喜びであり、教師としてのエネルギー源になっています。

教師になって10年目。今年は、小学校4年生の元気な子どもたちと毎日楽しく学習しています。4月、学活で、「どんな学級にしたいか」について話し合いました。真剣な話し合いの結果、助け合い励まし合って共に高め合い、みんなの笑顔がたくさん見られるような学級にしたいという願いを込めて、学級目標を『パズル〜つなげよう33人の心〜 挑戦・協力・工夫』と決めました。そして、そんな学級目標を達成するための重点活動の1つとして「8の字跳び」を位置付け、3分間で350回跳ぶことを目指して1年間取り組んでいくことにしました。翌日から早速、8の字リーダーを中心に練習計画を立て、まずは1学期学年杯を目標に歩み出しました。取組を始めてしばらくの間は、子どもたちの意識も高く、どの子も一生懸命練習に取り組み、記録も順調に伸びていきました。しかし、練習を始めて1ヶ月が過ぎた頃から、練習に参加できない子や、参加してもなかなか真剣に取り組めない子が現れ始めました。それに伴い、記録も停滞し、子どもたちの笑顔も徐々に消えていきました。案の定、プレ学年杯では、4学級中3位という結果に終わりました。しかし、悲しそうな顔の子や悔しそうな顔の子、苛立ちを隠せない顔をしている子など、この結果に誰一人満足している子はいませんでした。そんな子どもたちの様子を見て、私は、今こそ子どもたちが学級として個人として飛躍する絶好の機会であると捉え、リーダーと共に、改めて話し合いの場を設けることにしました。

話し合いでは、一人一人が自分の思いを語り、もう一度取り組みを始めた当初の気持ちを思い出し、みんなが笑顔になれるように頑張ることを確認し合いました。その後、子どもたちの練習に取り組む姿勢は大きく変わりました。そして迎えた学年杯。仲間のことを思い、最後まで絶対あきらめないという子ども達の全力を出しきる姿勢が215回という結果に結びつき、見事優勝することができました。この時子どもたちが見せた弾けるような笑顔は忘れられません。記録は、その後も順調に伸び続け、1学期終了時には258回までできました。今後も、子どもたちと共にPDCA(プラン・ドゥ・チェック・アクション)を繰り返しながら、笑顔いっぱいの『パズルの華』を咲かせられるように頑張りたいと思います。

8の字跳び以外にも、学校生活のあらゆる場面において、子どもたちの笑顔を見ることができます。水泳においてクロールで25mを泳ぎきった時に見せる笑顔。算数の問題が解けた時に見せる笑顔。リコーダーの演奏が上手くできた時の笑顔……。どの笑顔も、その裏に必ず子どもたちの努力があるからこそ、私には眩しく輝いて見え、喜びを感じるのです。

今年は、体育授業を通して、『自らよりよい動きを求め続ける子』をテーマに研究しています。全ての子が、新しい動きができるようになったり、記録が伸びたりする経験をし、「できる喜び」を感じられるようにしたい。そして、自分自身のさらなる可能性に気づき、「もっともっと」とよりよい動きを求め続けていく子どもたちの姿を引き出していきたいと考えています。

教師は、日々忙しく、大変な仕事ですが、子どもたちと喜びや感動を共有できるとても素晴らしい仕事だと思います。30年後も今と同じように、「教師になってよかった。」と思えるように、今後も、日々努力していきたいと思っています。





学生の就職状況について

教育指導員 田口和男

昭和43年度生物地学科（生物）卒業

1. 岐阜県の教員採用状況

(表1)

	24 予定数	23 採用数	22 採用数	21 採用数	20 採用数	19 採用数
小学校	240	288	165	159	193	220
中学校	140	175	115	108	94	107
高等学校	120	134	90	90	87	93
特別支援学校	50	52	49	49	47	47

ここ数年の岐阜県の教員採用数は表1の通りです。昨年度は大幅に採用数が増えましたが、今年度は行政改革の関係で約100名の採用減です。来年度以降もこの採用数は確保されそうです。いずれにしても数年前に比べれば、岐阜県の教員を目指す学生にとってはチャンスが続くと考えられます。

学部が実施している「ACTプラン」は1年生の観察を中心としたトライアル、2年生の参加型実習のリサーチ、そして3年生の教育実習（プラクティス）、4年生の教職インターンと続きます。この一連の実習体験が教員を目指す学生の資質の向上につながっていると確信しています。

2. 学部生、院生、既卒者の採用試験受験状況（一次試験）

今年度の教員採用試験一次試験の受験者数は下表の通りです。約7割の学部生が教員を目指してがんばっています。

	岐 阜 県			愛知県	名古屋市	その他の県	総計
	学部生	院生	既卒者	学部・院生	学部・院生	学部・院生	
小学校	83	4	85	27	6	22	227
中学校	28	9	25	8	1	9	80
高等学校	13	9	12	4	3		41
特別支援	11	1	11	1		3	27
幼稚園					2		2
合 計	135	23	133	40	12	34	377



【模擬集団面接(教採一次対応)】

8月初旬に発表された一次試験の結果は次の通りです。

学部生の岐阜県各校種の合格率は、小学校～93%、中学校～約89%、高等学校～約77%特別支援学校～約91%です。彼らが10月の二次試験の結果発表を待っているところです。

3. 既卒者の教員採用試験状況について

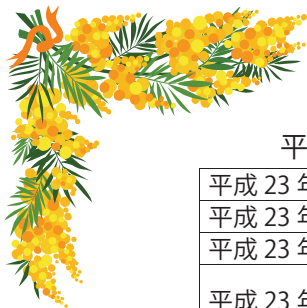
既卒者の約70%が一次試験を突破して二次試験の結果を待っているところです。今年度、多くの既卒者が大学に集まり学習会を開催していました。来年度も学習会の場を提供したいと考えていますので、進路相談室へ気軽にご連絡下さい。

また、同窓会員の皆様におかれましては、教員を志望し現場でがんばっている既卒者に対して是非ともご支援いただきますようお願いいたします。

学生・既卒者の 進路相談

教育学部本館1階の「進路相談室」で田口和男、吉田芙美子の2名が進路相談を行っています。既卒者で教師を目指しておられる方はお気軽にご連絡下さい。

月・火・水・木・金曜日の9:00～16:00 進路相談室：058-293-2208



退職・転任された教員のご紹介

平成22年度をもって、退職・転任された教員は次のとおりです。

平成23年3月31日	定年退職	岩田 恵司	教授	数学教育
平成23年3月31日	定年退職	八神 利夫	教授	音楽教育
平成23年3月31日	定年退職	富岡 卓博	教授	美術教育
平成23年3月31日	定年退職	大井 修三	教授	学校教育 ※平成23年4月1日より 岐阜大学教職課程支援室特任教授
平成23年3月31日	退職	松岡 博	特任教授	教職大学院(実務家)

新しく着任された教員のご紹介

平成23年度に教育学部に着任された教員は次の通りです。

平成23年4月1日	採用	好川 聡	准教授	国語教育
平成23年4月1日	採用	日比 光治	准教授	教職大学院(実務家)
平成23年4月1日	採用	山本 譲	特任教授	教職大学院(実務家)



同窓会組織部からのお願い

同封の住所不明者一覧表について

今回の調査で3回目になりますが、今年も「住所不明者一覧表」を同封しております。これまでの調査に、大勢の方がご協力くださり、誠にありがとうございました。今年も調査を行うことになりました。

一覧表のなかには昨年までの調査時にご連絡をいただいたにもかかわらず、今回の不明者一覧にお名前がある方もみえると思いますが、これは教えていただいた住所に後日会報を郵送した結果、宛先不明で郵便局より戻ってきた場合や、教えていただいた住所が間違っていた場合などがございますので、何卒ご了承ください。

さらに、お手元に届いている方でも住所変更で転送されたり、実家に送られているなどで、届け先を変更されたい方のご連絡もお待ちしております。

住所不明者調査の方法が変わりました

今回よりご連絡いただく方法を変更いたします。これまで、本人または本人以外の友人・知人の方からのご連絡により情報提供をいただいておりますが、**今回よりご本人様及び本人の了解を得た代理の方からのご連絡のみ情報変更として受け付けさせていただきます。**もし、一覧表の中にあなたがご存知の友人・知人がいらっしゃいましたら、ぜひその方に不明になっていることをお伝えいただき、本人様から、または本人様の了解を得て同窓会事務局へご連絡いただきますようお願いいたします。

会員情報変更届(ハガキ)を同封しました

今回より、会員情報変更届(ハガキ)を同封しております。住所変更・物故のご連絡・同窓会報の発送先変更や会報不要などのご連絡にお使ください。必要事項をご記入の上、左側シールをはがし、用紙中央で折り返して個人情報情報を保護できます。切手は必要ありませんので、そのままご投函ください。

平成24年度より、新同窓会会員管理システムを導入します

現在、会員情報充実のため、新同窓会会員管理システムの導入を進めています。万全のセキュリティ体制のもとインターネットを通じてアクセスできるようにすることにより、同窓会の活性化を目指します。サービス開始後(平成25年1月予定)には、会員ご自身がログインし住所変更の手続きなどができるようになります。次回、会報発送時にID・パスワードを配布できるよう現在、準備を進めております。

【連絡方法】 はがき 〒501-1193 岐阜市柳戸1番1 岐阜大学教育学部内 同窓会事務局 宛
 電話・FAX 電話：058-293-2344(平日10時～15時にお願いたします) Fax：058-293-2343
 Eメール kyo_doso@gifu-u.ac.jp

注意：同窓会事務局では、会員の個人情報の開示は行っておりませんのでご了承ください。



各学科同窓会の活動

国語 (事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 遠山 健二)

昨年度より、少しずつ「国語科同窓会名簿」の整理に取りかかっています。平成24年度中の完成を目指して、学年幹事の方にお助けいただくことになるかと思いますが、その節はどうかよろしくお願ひします。

史学 (事務局 岐阜大学教育学部附属小学校 平野 孝雄)

- [期日] 平成23年8月20日(土)
- [場所] グランヴェール岐山
- [内容] ①総会
会長挨拶、事業報告・計画、会計報告、平成23・24年度役員紹介
- ②講演
「犬山城址の公園化と地元 稲置村(犬山村)」
講師 東海学院大学 学長 松田 之利 先生
- ③懇親会



地理 (事務局 岐阜教育事務所 奥村 雅人)

- (1)第37回同窓会「濃飛の集い」 第43回生(代表 坂口 亨)が担当
【期日】平成23年8月6日(土) 13時~16時
【会場】岐阜大学教育学部B201教室
- ①総会 開会の言葉、当番回生あいさつ、参加者自己紹介、恩師の先生方の話、次回44回生代表の話、諸連絡
- ②学習会 講演「中山間地域における地域づくり」
～石徹白での取り組みから～
NPO法人 地域再生機構 理事 平野 彰秀様

・過疎地域である石徹白での取り組みの事例を紹介していただき、住民の意識が変容している現状を理解することができ、さらに石徹白と同様な問題を抱えている地域の今後の展望を考える会となった。

- (2)次回活動予定 平成24年8月4日(土)
第44回生(代表 川畑 建一郎)が担当

法経 (事務局 白川小学校 丸山 靖生)

学科として、総会等の定期的な活動は行っておりませんが、学年や所属地域ごとに連絡を取り合ったり、教科研究会での実践交流を通して連携を深めたりしています。

哲学 (事務局 羽島市立竹鼻小学校 田中 明)

ここ数年、定期的な活動を実施できておらず、関係の方々には大変ご迷惑とご心配をおかけしております。
平成23・24年度中に、会員の皆様の近況報告、大学の先生や会員による講話を中心とした「哲学の集い」を開催したいと考えております。期日等は未定ですが、郵便はがき、Eメール等の方法でご案内させていただきます。

数学 (事務局 岐阜市立長良西小学校 宇野 聡)

- (1)総会
【開催日】平成23年5月29日(日)
【会場】岐阜大学教育学部本館7階第一会議室
【講演】岐阜大学教育学部
数学教育講座 准教授 柘植 直樹 先生
演題 「気体の数学解析」
【研究会】発表者50期 岐阜市立鏡島小学校 藤井 大昌 先生
57期 岐阜市立島中学校 嶋田 雅也 先生



- (2)同窓会名簿「わしょう」の作成
本年度は同窓会名簿の改訂・発行の年度にあたり、9月に会員に名簿を発送する予定。(運営委員会の開催と作業)
- (3)今後の活動予定
○数学科卒業予定者に対して、数学科同窓会「わしょう会」の組織・規約等の説明会を行う。(平成24年2月予定)
○運営委員会を行い、来年度の計画を立案する。(平成24年3月予定)

物理 (事務局 武儀中学校 奥田 好紀)

学科として、今年度は総会等の活動は行っておりません。学年ごとに連絡を取り合い、連携を深めております。
なお、今年度より、事務局が変更となりました。各学年代表の方は、各学年の情報等、事務局まで連絡いただくとありがたいです。

化学 (事務局 三里小学校 佐藤 伸幸)

- ◇同窓会運営
・平成23年7月17日(日) 運営委員会・利部教授退官記念実行委員会合同会議
・平成23年11月上旬 同窓会会報「かんきせん」第24号発行
・平成24年1月下旬頃 運営委員会・利部教授退官記念実行委員会合同会議
(総会準備)

- ◇研究会活動
・岐阜かがく教育研究会の活動
毎月1回ほど、会員5~10名が岐阜大学附属学校に集まり、指導案協議や教材開発・実験などを行い、幅広く学びあっている。
平成23年12月末 実践発表会(岐阜大学附属学校)開催予定
同日 総会・懇親会(グランヴェール岐山)開催予定

- ◇現役学生との交流活動
年度末に開催される「大学卒業論文・大学院修士論文発表会」に同窓会員も数名参加し、学問研究に触れたり、教育現場の立場でアドバイスしたりしてする。
「送別会」にも数名参加し、学生と教員・産業界等の同窓生との交流を深めている。

生物 (事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 横井 大輔)

(1)理事会 年3回

機関誌「岐阜の生物」の編集方針検討,名簿校正作業,機関誌・名簿発送作業,総会打ち合わせなどを行っている。

今年度は

- ①平成23年2月に機関誌「岐阜の生物」No24の発送作業を行った。
- ②平成23年7月9日に機関誌「岐阜の生物」No25の編集方針の打ち合わせを行った。
- ③平成24年1月に機関誌「岐阜の生物」No25の発送作業を予定

(2)機関誌「岐阜の生物」

毎年1月に発刊,全会員に郵送している。
(本年度は第25号を発刊の予定)

地学 (事務局 岐阜大学教育学部附属小学校 武藤 大輔)

毎年の12月末に,有志による実践発表・研究会,および懇親会を継続的に実施しています。興味のある方は,ぜひご連絡ください。詳しい案内を差し上げます。お待ちしております。

音楽 (事務局 大垣市立興文中学校 棚橋 弘)

平成22年度の卒業生10名を迎えて,会員数は1,081名(H23.4.1現在)となりました。昨年秋には3年ぶりの「総会・懇親会」が開催され,多くの恩師の先生方を囲んで,懐かしい時間を過ごすことができました。

昨年度の主な活動は以下のとおりです。

【活動状況】

- ・H22.11.14(日) 第15回総会・懇親会(グランヴェール岐阜)
- ・H23.1.27(木) 新入会員説明会(岐阜大学)
※佐原先生同席,新入会員10名
- ・H23.2.11(祝) 第57回卒業演奏会(サランカホール)
※ステージ飾り花を贈呈(演奏会支援)
- ・H23.4.09(土) 八神利夫先生送別会
- ・H23.06.18(土) 平成23年度第1回理事会開催(北部コミュニティー)
- ・H23.07.14(木) 研究室訪問(佐原先生)

○八神利夫先生のご退官

長らく,私たちをご指導いただいた八神先生が,本年3月31日をもって退官されました。そのご恩に感謝し本部役員会を中心にして送別会を開催しました。

八神先生のご退官のあと,声楽の先生の補充はないようにお聞きしておりましたが,研究室の先生方のご努力で非常勤講師の先生が入られることになりましたので会員の皆様方にもご紹介します。

声楽(非常勤講師) 金原 聡子 先生(ソプラノ)
東京芸大大学院修了・東京在住

○卒業演奏会

「卒業演奏会」については,大学側は「中止」の決定をしましたが,学生たちの自主公演という形で(とりえず今年は)継続することになりました。

同窓会としては,学生さんたちを何とか応援してあげたいものだと考えています。本年度の開催予定は以下のとおりです。

期日:平成24年2月19日(日)
会場:サランカホール

美術 (事務局 岐阜大学教育学部附属小学校 山本真司)

(1)ブログ「ぎふ美術の風」・各地区情報提供者会の開催

- ・期 日:平成23年8月20日(土)
- ・場 所:岐阜市立青山中学校(会議室)
- ・参加者:会長・副会長・顧問・各地区情報提供者(岐阜地区・岐阜県美術館担当・西濃地区・美濃加茂地区・東濃地区・飛騨地区)・事務局員
- ・内 容:美術工芸学科同窓会・事務内容として,昨年度同窓会のホームページ「ぎふ美術の風」を立ち上げた。今年度は,県下各地区での同窓会員の各種展覧会(卒業年次でのグループ展・個展・各小中学校毎のグループ展),及び会員の出版物,スケッチ紀行,美術館紀行,そしてまた,各職場での教育実践・部活動等々のご活躍の情報を,スムーズに管理人のところに集約できるよう組織を発足した。

※ブログアドレス <http://gibido.blog134.fc2.com/>
ブログタイトル「ぎふ美術の風」です。
ぜひご覧ください。



(2)第60回卒展・第5回在学学生展の開催

平成23年度卒業生・在学学生による展覧会が行われます。

- ・期 日:平成24年2月14日(火)~19日(日)
- ・場 所:岐阜県美術館 一般展示室A(卒展)・B(在展)

体育 (事務局 岐阜市境川中学校 岡部好四郎)

1.総会,還暦祝いの会及び懇親会

【期日】平成23年6月11日(土) 100人出席

【会場】ホテルグランヴェール岐阜

- 【総会内容】
- ①新入会員(19人)と物故者(4人)の報告
 - ②22年度会務,事業報告,会計報告及び監査報告
 - ③23年度事業計画及び予算案の承認
 - ④大学の近況報告

2.事業の内容

- ①平成23年1月から6月の間に役員会を3回,常任理事会を1回開催して,各種の事業について検討した。
- ②在学優秀選手の選出を行い,平成23年2月11日に表彰した。対象者16人にメダル及び表彰状を授与した。(役員2人出席)
- ③平成23年3月24日に新入会員の入会式を開催した。(役員3人出席)
- ④「古田善伯先生ご退職をお祝いする会」を開催した。
 - ・期日 平成22年11月6日(土) 90人出席
 - ・場所 ホテルグランヴェール岐阜
 - ・内容 ①記念講演「私の研究史について」
②お祝いパーティー

技術・職業 (事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 淀川雅夫)

平成23年度同窓会総会についてご報告いたします。

3年に1度の総会が10月15日(土)に岐阜地区で行われ,ご多忙の中,多数の卒業生の皆様にご参会いただくことができました。ありがとうございました。

総会ののちに,岐阜大学教育学部長の江馬諭様をお招きし「技術教育の現状と今後」という演題でご講演いただきました。技術教育が現代で担う役割や今後の展望についてお話しいただいた他,大学時代にお世話になった先生方のお話までいただくことができ,懐かしい気持ちになりました。



次回は平成26年度に東濃地区で開催の予定です。よろしくお願います。

家政（事務局 坪井春美）

- 平成23年度の活動
 - ・会員の現況調査
名簿管理のため、年次代表の方に依頼し、会員の現況調査を行った。
- 今後の活動
 - (1)「総会及び同窓会」
次回は、平成26年8月に開催を予定している。
 - (2)年次代表者会
総会及び同窓会開催に伴い、年次代表者、役員、世話役が集まり、活動の方向や総会の内容について検討する。
平成26年4月頃、予定している。
 - (3)同窓会名簿
総会のある年に作成し、希望者に配布予定。
- その他
 - ・毎年5月頃に、年次代表者を通じて名簿の確認を行いますので、ご協力をお願いします

英語（事務局 岐阜大学教育学部附属小学校 尾崎 友美）

- 同窓会総会
平成21年度に開催。次回は平成24年度の予定。多くの会員の皆様にご参会いただきますようお願いします。
- 連絡
住所変更があった場合は、各期評議員または事務局にご連絡ください。

学校教育（事務局 中村 正信）

お問合せ・住所変更等は、同窓会事務局まで連絡ください。

※※※※ 原稿をお待ちしております ※※※※

同窓生のみなさんの近況や活動を同窓会報で紹介させていただきたいと思います。紹介したい記事等をお持ちの方は、原稿や写真等を下記、同窓会事務局へ郵送またはFaxまたはEメールでお送りください。

平成23年度 各学科同窓会事務局

講座名	学科	所在地		担当者	電話
国語教育	国語	〒500-8482	岐阜市加納大手町74	岐阜大学教育学部附属中学校	遠山 健二 058-271-0320
社会科教育	史学	〒500-8482	岐阜市加納大手町74	岐阜大学教育学部附属小学校	平野 孝雄 058-271-3545
	地理	〒500-8708	岐阜市司町1	岐阜教育事務所 教育支援課	奥村 雅人 058-264-1111
	法経	〒501-5629	大野郡白川村鳩谷2	白川小学校	丸山 靖生 05769-6-1366
	哲学	〒501-6241	羽島市竹鼻町1295	竹鼻小学校	田中 明 058-392-3000
数学教育	数学	〒502-0832	岐阜市千代田町2丁目	長良西小学校	宇野 聡 058-232-5222
	物理	〒501-3511	関市中之保5700-5	武儀中学校	奥田 好紀 0575-49-3062
理科教育	化学	〒501-1161	岐阜市西改田川向94-1	七郷小学校	佐藤 伸幸 058-239-7330
	生物	〒500-8482	岐阜市加納大手町74	岐阜大学教育学部附属中学校	横井 大輔 058-271-0320
	地学	〒500-8482	岐阜市加納大手町74	岐阜大学教育学部附属小学校	武藤 大輔 058-271-3545
	音楽教育	音楽	〒503-0918	大垣市西崎町1丁目82	興文中学校
美術教育	美術	〒500-8482	岐阜市加納大手町74	岐阜大学教育学部附属小学校	山本 真司 058-271-3545
保健体育	体育	〒501-6121	岐阜市柳津町上佐波東3-70	境川中学校	岡部好四郎 058-279-0009
技術教育	技職	〒500-8482	岐阜市加納大手町74	岐阜大学教育学部附属中学校	淀川 雅夫 058-271-0320
家政教育	家政				坪井 春美
英語教育	英語	〒500-8482	岐阜市加納大手町74	岐阜大学教育学部附属小学校	尾崎 友美 058-271-3545
学校教育	教育				中村 正信

● 編集後記 ●

教育の分野では、北欧の伝統的な工作・工芸教育であるスロイド教育の再評価が行われています。スロイドとは実体験を伴う工芸（民芸）制作で、炉端で親から子どもにもものづくりの技法や文化を伝えるものです。効率性や大量生産に着目しがちな現代において、人間的なふれあいや手・体全体を通して学ぶことが重要視されているといえましょう。スウェーデンの社会福祉、フィンランドの「学力世界一」の基盤もスロイドにあるという指摘もあります。昭和から平成へと時代が推移する中で、教育の方法や精神についても、次の世代に丁寧に伝えていきたいと考えます。ちなみに、本年度の全学共通教育のキャリア形成科目（就業力育成科目）「私は社会でこう生きてきたー岐阜大学の先輩たちの見る日本社会ー」で、同窓会員の宮脇恭頭・宮川浩兵・杉山恵子先生が教育の理念や教師としての生き方について学生に語られています。いろいろな場や機会に、同窓会員の皆様の経験を学生や若手教員にご紹介下されれば幸いです。

（広報部会 辻 泰秀）

岐阜大学同窓会報
第17号

発行日 / 平成23年12月発行
発行者 / 江端 雅司
発行所 / 岐阜大学教育学部同窓会

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1
岐阜大学教育学部内 同窓会事務局
TEL. 058-293-2344 FAX. 293-2343

岐阜大学教育学部同窓会ホームページ：http://www.ed.gifu-u.ac.jp/~dousoukai/ E-mail：kyo_doso@gifu-u.ac.jp